



身延小

身延町立身延小学校
Tel 0556-62-0066
Fax 0556-62-0368

学校の理念：「すべての子どもに笑顔があふれる学校をつくる」

児童会役員選挙が実施されました！

文責 校長 穂坂洋紀

先月の学校だよりでも紹介しましたが、3学期に入ってから来年度の児童会役員を決める選挙が行われていました。候補者は、選挙運動として各学年の教室を回りながら自分の考えを伝えてきました。

その選挙の締めくくりとして1月26日（金）に立会演説会が行われました。候補者は2年生以上の児童を前にし、来年度の身延小学校を素晴らしい学校にするために掲げた自分の公約を訴えました。それに対し聴き手も視線だけ



でなく身体を演説者に向けて、内容を理解しようとしてしっかり聞いていました。

候補者の演説内容を聴いていると魅力いっぱいの学校の姿が想像できました。さらに「選挙公約」を観ながらも、身延小をよくしていきたいという想いを感じ、うれしく、また、頼もしく思いました。

どの候補者の演説も素晴らしく、来年度の児童会活動に対して期待が膨らみました。

立会演説会終了後、子どもたちは投票に臨みました。一人ひとり真剣に考え、一票一票を丁寧に記入している姿が印象的でした。

開票にあたっては、選挙管理委員が慎重に確認しながら票を数えて確定しました。

候補者をはじめ、今まで選挙運動を陰で支えてきた責任者をはじめとする5年生、選挙活動を公正に管理してきた選挙管理委員たちの努力を讃えたいと思います。

今回の選挙は、どの候補者も素晴らしい考えを持ち合わせ、接戦となった選挙でした。ここで、忘れてはいけないのは、当選者の意見だけでなく、惜しくも当選を逃してしまった人の意見が、そして、その人に投票した人の一票がどんなに大切か、わかって欲しいと思います。

身延小学校の児童会をよくしようと真剣に考えて立候補した人の意見は、みんな素晴らしいこと。身延小学校の児童会をよくしようと真剣に考えて投票した一票には、みんな価値があること。このことを、実際に立候補した人に、そして、投票した人に、理解してもらえると嬉しいです。

1年間の振り返りとまとめ ～児童総会～

3学期はまとめの学期です。2月8日（木）に今年度最後の児童総会が実施されました。

この1年間「みんなの絆で集めよう！心の四つ葉のクローバー」のテーマを実現するために、日常において地道に活動を進めてきました。そのまとめとして活動目標ごとに今年度の成果と課題を出し合い確認しました。

総会の素晴らしさはここで終わらず、さらには3学期が終わるまでに、今の学年で何に力を入れて取り組むかを話し合い、参加した3年生から6年生まで





が、自分たちの現状を発表し課題を確認することができました。自分の言葉で語り合う子どもたちの姿に感動し、また、各学年の発表を聴きながら、今後も自分たちにとって望ましい生活を自分たちで考え、行動しながら、より良い学年を、よりよい児童会をつくっていきってもらいたいと改めて思いました。

今年度を振り返ると、毎日の学校生活で6年生を中心に全校で仲良く過ごし、よりよい身延小学校をつくっていきこうと力を合わせていて、みんなが輝いていた

と思います。

このことは、来年度の児童会の活動にきっと活かされることでしょう。

できません やれませんか～理想 夢 目標と 実現を阻む線～

3学期が始まって早々の1月11日(木)の集会の時間、気持ちを新たにがんばろうとしている子どもたちに、次のような話をしました。

みなさんは、将来、世界はどのようになって欲しいと思っていますか。日本はどのような姿が望ましいと思いますか。また、みなさん自身はどのような人になりたいですか。

みなさんの心の中には、意識している、意識していないにかかわらず「これがよい」とか「こうなったほうがよい」と思うことがあります。その最高のものが「理想」というものでしょう。また、日々生活していく中で「こうなりたい」「こうしたい」など、将来、自分で実現したい、実現させたいと思っ

ている「夢」やそれを叶えていくための「目標」というものがあったり、これから現れてきたりするでしょう。

このような考えは、ある意味で「レベルの高い普通をめざす」ことにもつながっています。

しかし、みなさんの「理想」や「夢」、「目標」と、みなさん自身との間にある線が入ると、みなさんが抱いている「理想」に近づくことや、「夢」、「目標」を実現することが難しくなってしまいます。

その線のことをなんといいましょう。その線は、「やれませんか」「できません」といいます。

この線は目に見える線ではありませんが、みなさんがこの線を持ってしまったときには、その時点で明らかに可能性が無くなってしまいます。なぜなら、その線を引くのは自分自身だからです。

周りを見渡してみても、線を引かない象徴的な人物が今回グローブを送ってくれた大谷翔平選手です。大谷選手は、だれもができないと言っていた二刀流を実践し、WBC優勝の中心として活躍しました。でもそんな大谷選手でさえも、高校時代に甲子園では優勝していないし、3年生の夏には甲子園に出場もできませんでした。

みなさんもわかっているように、すべてが理想通りにはいきません。夢や目標は必ずかなうとは限りません。ですが、望み努力するからこそ「理想」に近づき、「夢」、「目標」は実現されるのです。

思い通りにいかなくても、「理想」や「夢」、「目標」に近づく努力をすることによって、自分にとって「成功」できない場合でも、「成長」はできるのです。

以前に「成功するところまで続ければ、それは成功になる。」と言っていた人がいます。意味するところは、「あきらめたらそこで終わり、あきらめないで」ということです。この言葉にも通じるものがあります。

自分が願うものを手にするためには、あるいは、それに近づくためには、自分で自分の限界を決めないことが大切です。

自らが何かを望み、それを成し遂げたいと思ったとき、結果的に、できないことや、やれないことがあっても、自分から「できません」「やれませんか」という線は引かないことが大切であると、今も昔も教えてくれている人がいます。

